

文学館だより

平成30年10月1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文 責 日 高

里の子のかける神輿のきらめきて夕日まばゆき秋祭かな

明治35年延岡中学校4年生（17歳）のときに詠んだうた。「牧水」を名のる1年前である。
日州独立新聞10月28日号に掲載された。歌集未収録の一首である。

第68回 牧水祭 9月17日 200名を超える方々が坪谷に集う

没後90年を迎えた今年、ゆかりある地では数多くの記念事業が開催されています。ここ坪谷で命日（9月17日）に毎年開催されているのが『牧水祭』。今年で68回目を迎えました。毎年台風の心配がつきないところですが、今年は、真夏を思わせるほどの晴天に恵まれての開催となりました。

第1部「歌碑祭」は、生家横夫婦歌碑前にて、第2部「牧水を偲ぶ会」は、牧水公園ふるさとの家にて執り行われました。

【歌碑祭】



巫女 東郷学園 8年
三浦菜々子さん
那須あかりさん
(ともに坪谷小出身)



牧水の短歌朗詠
岩下富男さん
(坪谷在住)



全国からおいで
いただいた牧水
顕彰の方々



裏山歌碑に献酒
する主催者
十屋幸平市長



歌碑後方より
臨む広大な青
空と尾鈴山系

【牧水を偲ぶ会】



牧水の母校、坪谷小学校児童による牧水の歌斉唱によって、牧水を偲ぶ会が始まりました。1年生5名が加わり、17名のつぼやっこたちの澄みきった歌声が響き渡り、心洗われるひとときが流れます。全国の牧水ファンの皆さまにぜひとも聞いていただきたい1シーンです。

そして今年の注目すべきは4歌人による座談『牧水の新しい読み』ではなかったでしょうか。

俵 万智さん（第11回若山牧水賞受賞）は、ご自身の失恋（=挫折感）と牧水の恋の歌に相通ずるものがあったという牧水作品との出会いをお話くださいました。

大口玲子さん（第17回若山牧水賞受賞）は、牧水の子どもの歌に関心をもたれており、父として子を思う牧水と母としてのご自身を重ねていらっしゃると感じました。

吉川宏志さん（第21回若山牧水賞受賞）は、頭で考えるのではなく体で感じ、体で感じたことが歌につながっているところが牧水の良さであるとおっしゃっていました。



その後は、酒と「牧水御膳」を囲んでの昼食会です。地元コーラスグループ、民謡、延岡顕彰会前会長 塩月 真さんの牧水短歌朗詠のほか、今年は早稲田大学校友会宮崎県支部の皆さんによる早稲田大学校歌大合唱があり、皆で牧水を偲びました。



また、8月末に刊行された俵 万智さん執筆『牧水の恋』（文藝春秋）の販売を行ったところ、ご本人がサインをしてくださるとあって大変混雑しました。あの日に買った一冊と思い出してくだされば嬉しいです。なお、サイン入り『牧水の恋』は、あと1冊のみとなりました。

牧水祭前日祭 9月16日 没後90年を記念して初めて開催

【 日向市駅前歌碑祭 】



【 左 】 献歌
朗 詠 東村吉市さん
「幾山河にえさり行かば
寂しさのはてなむ國ぞけふも旅ゆく」
(歌の表示は碑文どおりです)



【 右 】 献酒のようす

【 牧水うたの響演 】

日向童謡をうたう会をはじめとする地元合唱グループ、日向市立寺迫小学校児童による牧水のうた斉唱など、まさしく皆で牧水のうたを響かせました。

【 短歌オペラ「海の声」 】

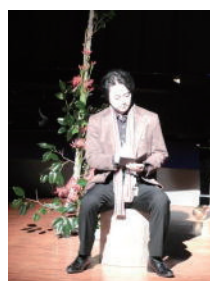
11月に東京公演されるという牧水短歌オペラが日向市で先行上演されました。



牧水と小枝子



牧水と喜志子



日記を読む牧水



フィナーレ 出演者のみなさん

【 あくがれの会 】

あくがれの会会員をはじめ、全国各地からご参集の牧水顕彰会の皆さんが集い、交流を深めました。



つぼやっこたち、ありがとう！ 牧水生家清掃

9月27日(木)午後、リヤカーを引いて小学校から生家まで歩いて来てくれた。いつもと変わらない当たり前の光景。一緒に活動しようと私も生家へ急ぐ。6年生2名と5年生2名のリーダー率いる4グループが所定の場所で清掃を始めていた。生家周辺、夫婦歌碑周辺、駐車場、裏山歌碑までの参道に17名が散らばる。



誰ひとりとしてぶらぶらする児童はいない。おしゃべりもない。
1年生も一人前、何をすべきかみんなわかって動いている。

当たり前の光景かもしれないが、なかなかできるものではない。涙が出そうなくらいに感動している私がいた。牧水のうた斉唱が素晴らしいことは知っている。授業を真剣に受けることも周知している。しかしこれだけではなかった。つぼやっこたちは清掃活動も一生懸命なんだ。

「清掃で、『日向市一(いち)』を目指しています。」と言われた矢野根校長先生の言葉が胸に響く。一段とつぼやっこたちが大好きになった。

